

令和5年度 小谷村立小谷中学校経営ビジョン

(1) 学校目標 (建学の精神) 「日々新たなるべし 志を立てよ 美しくあれ」

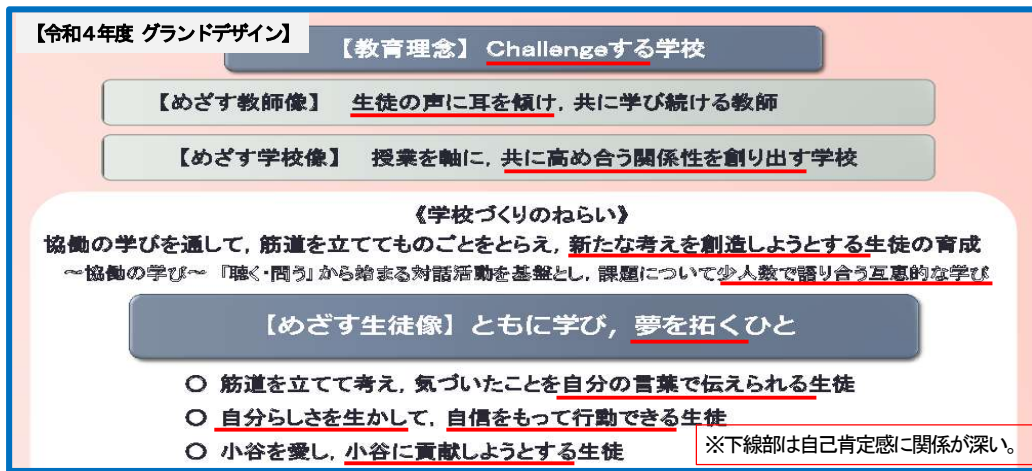
昭和63年の小谷中学校創立10周年のときに、当時の田中欣一校長によって「内なる充実」を指標としてつくられ、本校の建学の精神として受け継がれてきた。今年度で創立45周年を迎える。

日々新たなるべし 毎日、新鮮な目で、新鮮な心で 素直な気持ちで、自らに問う リズムと規律ある日々を	志を立てよ 夢や願いをもつ 素直な心と向上心をもつ 自ら行動する	美しくあれ ひたむきに打ち込む 品位ある言葉と行動 相手理解を深め、思いやる
--	---	---

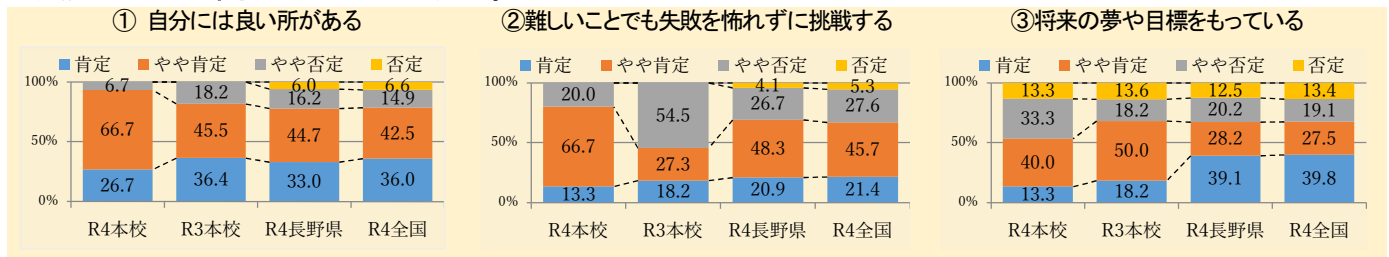
(2) 教育理念 「Challengeする学校」

科学技術の発展による「Society5.0」時代が到来する一方、人口減少化社会、感染症拡大、自然災害等から将来の予測が困難な「VUCA (ブーカ)」時代にも柔軟に適応し、個人と社会のWellbeingを目指して、たくましく生きる小谷の子どもの育成が求められている。

これからの人間に求められる資質・能力として、「自己肯定感」、「創造性」、「チャレンジ精神」、「コミュニケーション能力」等が挙げられているが、令和3年度全国学調生徒質問紙において、本校生徒は「自己肯定感」の項目が低いことから、令和4年度は、「Challengeする学校」を教育理念に掲げて教育活動を展開してきた。



結果、「自己肯定感 (自分には良い所がある)」や「挑戦心 (難しいことでも失敗を怖れずに挑戦する)」をはじめ、多くの項目で県や全国平均を上回ったが、「キャリアビジョン (将来の夢や目標をもっている)」の項目は低く、まだ、自分への自信がもてない状況であることが伺えた。



そこで、本年度は、「まずは自分でやってみるが認められ、仲間も精一杯応援する」「トライ&エラーの繰り返しで自己成長へとつながる (実感できる)」「前例踏襲ではなく自分の頭で考える」等、Challengeしたくなる土壌を大切にするとともに、達成感や成就感が味わえる機会を意図的に設け、生徒の「自己肯定感」を高めていきます。

(3) めざす学校像 「授業を軸に、共に高め合う関係性を創り出す学校」

学校の役割は、生徒が自分の良さや可能性を認識するとともに、他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手を担うことにあり、教師は、授業を通してその資質・能力を具現化します。

「授業を軸に、共に高め合う関係性を創り出す」本校は、「聴く」「問う」からはじまる対話活動を基盤として、課題について少人数で互恵的に語り合う「協働の学び」を手がかりに、授業改善に積極的に取り組み、生徒の探究心に火を灯します。

また、社会に希求される学力 (資質・能力) 観が、「知的基盤社会 (知識・技能を重視する社会)」から「自らの力で社会を変革していく作り手となる社会 (イノベーション力を重視する社会)」へとパラダイムチェンジしていることを受け止め、全ての子どもたちの可能性を引き出す「令和の日本型教育」を目指して、教師自身、授業改善にChallengeしていきます。